

0811

本書類の本件完結迄官房ニ  
 係及し最後ニ件書類ト共ニ整理  
 方取計公後 平事 深

深  
 (印)

決行指定

決裁指定

保存期限

事務主

大臣

件名

政務次官  
參與官  
回付  
決裁後  
連帶  
課名

了結  
昭和  
年  
月  
日

満密受第八六一號

起修修の要件

起元廳(課)名

決行(決裁)後  
回覽課名

關東軍

連帶

局長

次官

政務次官

不



參與官

局長

高級副官

牛島

局長

局長

長課

長課

主務課員

主務副官  
官房御用掛  
計

書記官



審案  
筆記者

陸軍

次官より閣下（事共洋島花）有深時子  
松柳毛也  
美多満一〇四三返

趙氏辞表提去、件之圖より、高方へ今迄何等

知所より今突如として首電に接したる所因氏ノ地位

（身外ノ因係より、藩州に）暇を人等、及ホス衆

御者並現並審改判、故ニ吾國を離り、吾等ニ

鑑に候旨より申上り候事ハテ申件ノ由テ人々知

ラサレ方トシテハ直ニ貴電ノ如ク申置スレト困難

ナレ付調書等他詳細ナルヲ傍ヲ明破ニシテ

書込跡ノ及キテ付共ノ旨越氏外免官等ノ

実現ヒスレバテキ探皇帝等ノ對シテ有テ配相

陸  
軍

1187-3

物に及らざる所  
効

是承知しぬし

大志

毛男曰息見たり。

陸羯部 方一四、七月十二日



1183

局長  
陸軍  
陸軍



八六一

至急親展

電報譯 七月二日午前午後九時五分發

第 號



陸軍次官宛 發信者 關東軍參謀長

閣參稿一〇四三

立法院長趙欽伯ノ不正行爲ニ関シ監察院ニ於テ  
ハ慎重審議ノ結果此際一切ノ官職ヲ褫奪シ綱  
紀ヲ肅正スル要アリトノ判決ニ到著シ本日之ヲ  
上セリ然レ共當方ニ於テハ目下大任ヲ帶ヒテ渡日  
中ナル大官ニ對シ懲戒的ノ處分ニ出テシムルハ政  
上考慮ヲ要スルモノト認メ趙ヲシテ進ンテ辭表ヲ  
提出セシムルヲ可ナリト認メアルニ付至急貴方ヨ

リ趙ニ對シ右ノ旨勸告セラレ度目下上京中ノ遠  
 藤廳長共連絡ノ上成ルハク速ニ處置セラレ度  
 總務廳ヨリハ明日遠藤宛發電スル筈  
 終



秘

電報譯 七月十二日 午前四時三十分 發

第 號

陸軍次官宛 發信者 關東軍參謀長

關參一〇四入

趙欣伯ノ不正行為ニ關スル監察院上奏ハ關  
參滿一〇四ノ如ク行ハレタルモ趙ニシテ違テ辭  
職スルニ於テハ參議院等ニ諮詢セラルル  
コトナキ様宮内府ニ注意シアルヲ以テ至急ハ辭  
職ノ手續ヲ為ス如ク指導セラレ度

陸 軍





次官等 (五下) 年夫洋長范 (有保晴子)

(横三行)

買冬滿一〇五三返

趙氏ノ件ハ眞是ノ妙ノ政治的並並原院別反ノ運用

上層面ヲ見ルニ有るニテ久ク之ニ日滿力也人百ノ

討立關係ノ甚起並滿洲ノ要人指導上影響スル

所動レリセス從ツテ十分候重ナル年夫ヲ要スル問題

たに付多方トシテ、貴方ヨリ送付セえ、之見者、引

省ヲ付ケ之カ態及ク快之改ニ取テ所存ナリ

而シテ、  
其満洲子育更え地代ニ付、日本例ヨリ公式ニ據

テ、納告書<sup>ス</sup>見テ、満洲ノ官庁上、穩當ナラズト思

料セえ、ニ付、了承ク乞フ。

詰  
目

者首尾ニリシ板垣少将ヲ連スル辭物勅告  
 一件ハ之ヲ官改スルニ至ラサリシ由同少将ノ言  
 付合ノ為  
 陸場六一九  
 昭和九年七月十三日  
 勅告ニテ  
 無ク白紙  
 百十四日

滿蒙 八三一

至急

電報譯

七月十三日 午前午後

一時五四分發

第

號

次官

宛

發信者

關東軍參謀長

關參滿一〇五三

陸滿六一四返

趙欽伯ノ不正事件ハ要スルニ金錢問題ニシテ滿人ト  
 シテ免レ難キ慣習的罪惡ナルモ其程度ヲ超過  
 シタルモノト云フヘク昨年以來監察院ノ注目スル所  
 トナリ本年三月頃ニ至リ到底在職セシムヘカラサル  
 モノトナシ先ツ個人關係密接ナル土肥原少將及  
 板垣少將ヲ通シテ辭職ノ勸告ヲナシタルモ趙ハ

却テ之ヲ拒否スルノミナラス關係者ヲ東京ニ招致  
 シテ其非違ヲ覆ハントシ証據ノ隠滅ヲ計リ  
 タルモノナリ詳細ハ監察院意見書ヲ空送ス  
 ルヲ以テ右ニ依リ承知セラレ度  
 軍トシテハ貴見ノ如ク兎モ角モ重職ニ在ル大官ニ對  
 シ單ニ法律上ノ罪惡ノミヲ以テ輕卒ナル處理ヲナ  
 スコトハ政治上ノ大ナル考慮ヲ要スルモノトシ今日迄  
 前記ノ如ク私的交渉ニ於テ辭職勸告ヲナスコト  
 ヲ容認シ來リシ處監察院ト連絡十分ナラサ  
 リシ為今回突如トシテ上奏ヲ見ルニ至リシモノニシテ  
 此間遺憾ノ莫甚シトセス監察院制度ノ缺陷並

1192

第 號

電報譯

月

日 午前 午後

時

分 分 著

宛 發信者

現院長及岳川部長、性格を考慮ノ要アリ  
 今後、處置ニ就テハ總務廳トモ連絡ノ上研究  
 スヘキモ此際、處置トシテハ前電ノ如クスルヲ適  
 當ト考ヘ御盡力ヲ請ヒシ次第ナリ  
 右ノ狀況諒察ノ上辭職手續ヲ採ラシメラレ  
 度

を

電

1193

保存期限  
決裁指定  
号表  
決行指定

大臣 委		局長 主務		政務 次官		件名 新聞部事務掲載禁止 1件	番受 領額 満額第ハ六一號	陸軍省新聞班
大臣 委		局長 主務		政務 次官				
了結 昭和 年 月 日	領受 昭和 年 月 日	提出 昭和九年七月十七日	領受 昭和 年 月 日	參與官		起元應(課)名 陸軍省新聞班	決行(決裁)後 回覽課名	參務大臣 回付 決裁 後(連帶) 課名
(裁決)行決 覽回後		帶 連		參與官				
局長		局長		高級 副官		書記官	審案 筆記者	
局長 課		局長 課		主務 副官 官房御用掛				
局長		局長		主務 課員				

長  
長



割官ヨリ 閩東軍參謀長苑 電報

(暗號) (乙二)

本日左記事項新聞掲載ヲ禁止セリ

左記

滿洲國立法院長趙欣伯ノ進退問題  
題茲之ニ関連スル切ノ事項

三三

昭和九年七月十八日

195

極秘

保存期限  
 決裁指定  
 修正  
 決行指定

大臣		政務次官		高級副官		書記官		審案 筆記者	
局長		主務局長		主務課員		主務副官 官房御用掛		主務課員	
局長		局長		局長		局長		局長	
昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日	
了結		領受		出提		領受		號番	
昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		軍事課 第三五號	
大官房		主務局長		主務局長		主務局長		主務局長	
昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日	
昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日	
昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日		昭和三十八年八月十八日	

受領  
 陸滿密受第二之號  
 趙欣伯ニ關スル件

政務次官回付  
 決裁前  
 連帶  
 課名  
 中  
 決行(決裁)後  
 回覽課名

軍務局軍事課

96II

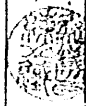
別紙ノ通

陸

一

連帶責任

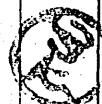
次官



局長



課長



課長



趙欣伯

（有伴暗子）

了

次官

（長年）（有伴暗子）

（有伴暗子）

趙氏、対して監察部決議、意見書採録。

本意見書は依り趙氏彈劾、罪状ハ之ヲ法的

解釈ニ從ハハ何レモ首肯スルニ十分ナリト雖モ如何

註

ル、		考方トシテ、次、妙ノ取扱ヲテ、妥當ナリト思科 セウ	考扱ノ理ヲ特ニ慎重ニテ、行ハルニ、要アリテ、從テ、	的ニ及ホス各般ノ影響者ヲ大均的ニ觀スルトキハ、之ノ		考電ニテ、兩取扱ノ、妙ノ本件、一直接の、直接				歴 目
----	--	------------------------------	---------------------------	---------------------------	--	------------------------	--	--	--	--------

一、本意見書：対元皇帝ノ截断……あり之ヲ保

留之共ノ旨本件ノ善後処置ニ対スル軍情也

及中央ノ態度ヲ協議決之

二、本意見書ハ人ニ然一方的強一劫スルヲ

~~本意見書~~之ニ対スル辯明ヲ求ム

三

四

陸軍

三、如何に辯明ヲ為スモ、勸告の上、  
態度ハ倅表、  
表裡ハ一致シテ勸告

一、

四、本件ノ裁断ニ方リテ、國務總理輔弼ノ責ヲ

明カニスル為、皇帝ノ恣理ノ意見ヲ尊重シ專断

(ニテトナシ)

ニ臨ミ、抑、皆、尊重スル。

✓

五、裁断—の超<sup>心</sup>の於<sup>テ</sup>悔悟ノ情歎者ニテ自<sup>白</sup>

自ラ不徳ノ致ス所トシ

勿論公明正大ナル行為

希ニ對シ得<sup>ル</sup>米<sup>田</sup>中<sup>カク</sup>如キ非<sup>達</sup>ヲナサズ<sup>ル</sup>トシテ折<sup>言</sup>

之<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ハ特別ノ思<sup>ハ</sup>ル<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>今<sup>回</sup>限<sup>リ</sup>之<sup>ヲ</sup>評<sup>シ</sup>

現<sup>狀</sup>ニ留<sup>コ</sup>ラシム<sup>ト</sup>

六、右ノ裁断—其<sup>ノ</sup>監<sup>察</sup>部<sup>長</sup>及<sup>シ</sup>監<sup>査</sup>部<sup>長</sup>ノ不

三三

三三



陸軍

万

滿洲に於ける予軍の於て特別の処置を講ずるに當り

ヨリ

ヲ提出スルカ如キ場合アリ

宗院長 ~~御署名~~ 表 白 書

予軍の爲め之に理應之に止ムコトニシテ

本件に關し直に予軍の指導上を以て

之を意致する有る問題に此際予軍の命令に白書

師傳之立場ニ於テ異見セシメテ在在ニ在在

要性ニ鑑ミ右処置ノ直ニ其ノ他ニ多シ隔意ナキ意

見ノ交換ヲナシ四五ノ下必西女ニ存セシム付奉ルニ遠慮

麻長ニ在在ニ中ニハ可也キ軍兵隊ノ上ニ在在

与テアリナリ念ノ為

陸軍

是より加多理方信ハ志 教諭長トシテ 打合セ請ヒノ意

見タシ付之ヲ 阪丹氏ヲ 托テ 國務顧問等ヘシ 傳達

方由地由等ヲ 乞フ。

陸軍 第三〇

昭和九年七月十八日



1205

保存期限  
決裁指定  
委任  
決行指定

政務次官  
回付  
決裁  
後課名

決行(決裁)  
後  
回覽課名

房官臣大		課局務主		大臣		件名	受領 番號	趙 欣 伯 = 関 ス ル 件	備 忘 録 受 第 八 〇 一 號	起元應(課)名	関 東 軍					
了結	領受	出提	領受	局長	次官							政務 次官	參 與 官	書 記 官	筆 記 者	審 案
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	主 務 局 長	次 官							政 務 次 官	參 與 官	書 記 官	筆 記 者	審 案
(裁決)行決 覽回後		帶連		課長	高級 副官	參 與 官	參 與 官	書 記 官	筆 記 者	審 案						
局長		局長		課長	高級 副官	參 與 官	參 與 官	書 記 官	筆 記 者	審 案						
局長		局長		課長	高級 副官	參 與 官	參 與 官	書 記 官	筆 記 者	審 案						
局長		局長		課長	高級 副官	參 與 官	參 與 官	書 記 官	筆 記 者	審 案						

1206

別紙  
一通

臣

宣

次山良

而長

課長

課長

趙 彼伯：(美石几件)

次官より(美石平兵衛長宛)(有保崎子)

(美三存)

美参備一〇八二返

真電ニ美石参方、見解次、通リ、付(西原内房)

事、上、這般、事情、通之者ヲ至急上京セシメ、採由



75  
6372

恒岳あり方↓

一、越代ヲシテ、自制的・解 秘トシメトスルモ 道志ノ控檢ニ

彼ニ得米惣當ノ意志アルトテ示スルアリヤレハ之ニ

歴三見込ナキト

二、越代四龍史ノ政治的知識ノ其ノ一、昔庵ノ如ク現在

満人而女人等カ越ニ計シ而名カラサレ空ニ氣ヲ有スル也

程心配ルル及ハストナスモ 彼等（要人）トシテモ忽テ自己ノ身

辺ニ迫リ来ルヘキヲ要テ感スルニ至ルニトハ自明ノ理ニシテ

學ニ従等ノ越ニ計スル人ノ氣格ニ依リテ所行ニ待ヘカウ

カレリ



三、在件ノ其ニ南方ノ台道ノ所見ニ何等ノ情勢ニ拘

ルニ或ハ不可必ク強制セリトスルニ去モ秋モナリ軍ノ

情勢ヲ指導上並ニ在件ノ其際的ニ及ラス孔御等

ヲ大島的ニ判断スルニ指導ノホナラサルト。

高在件ノ其際ニ高方ニ去モ在件ノ其際ニ去モ在件ノ其

併し市方配りなり。

一、現到 益壽院ノ運用上、移し是正方策。

（遺言不平等ノ中集協同ニテ）

二、地代四匁多倍後ノ例ニ準同等、走リテ各社陰謀

（ノト）  
（場合）

ヲ法叩告ノ子孫的ニ及チス見解。

陸瑞 草井人  
昭和九年七月三日



200 700

1212

極秘

親展

第

號

電報譯

七月一九日午前午後七時四三一分著

次官宛

發信者

關東軍參謀長

關參滿一〇八ニ

陸滿六三〇返

趙欽伯彈劾ノ處理方ニ關スル貴電拝承

滿洲國側ト十分熟議ノ結果貴電ノ趣旨

ハ之ヲ諒トスルモ事此處ニ至リテハ滿洲國

政府當局トシテハ監察院長ノ趙氏彈劾

ハ止ムヲ得サルモノト認ムルモ立法院長タル地

位ト彼ノ過去ニ於ケル功績ニ鑑ミ自発的

二辭職ヲ申出シメ官位ノ褫奪等法的處  
 断ヲ行ハサルヲ適當トスル意見ニ變化ナクセ  
 カ善後處理ニ関シテハ貴電ノ如ク一應辭  
 表ヲ提出セシメタル後ヤヲ許シテ現職ニ止マ  
 ラシムル如キハ趙氏ニ對スル滿人要人連ノ感  
 情相當面白カラサル現在ノ空氣ヨリ見テ  
 実行至難ナルノミナラス本問題ノ解決ニシテ  
 公正ヲ失ハシカ將來軍ノ指導ハ甚シク其  
 威信ヲ失墜スルニ至ルヘキヲ憂慮セラルカ  
 故ニ此際ハ情實ヲ去リ寧ロ涙ヲ振テ馬糞ヲ  
 切ル公明ナル處置ニ出スルヲ大局上適當ニ

陸 眞

電報譯

月 日 午前 午後 時

分 分 著

第 號

宛 發信者

テ且ツ必要ト認メアリ而シテ之ニ依リテ起ル政  
 治的影響者、如何ニ関シテハ素ヨリ之ヲ考慮  
 セサルヘカラサルモ自発的ニ辭職スルコトニ関シ  
 テハ前述ノ如キ荷人要人間ノ空氣並立法  
 院職員ノ院長彈劾書提出等ノ事實モ  
 アル矣ヨリ見ルモ此ニ程心配スル程ノコトナキ  
 ノト感得セラルルノミナラス事此處ニ至リテ  
 尚姑息ノ處理ヲ以テ解決センカ其結果却テ

在 記

監察院側ハ勿論滿人間ニ多大ノ不安且疑惑  
 ヲ懷カシムル惡影響ヲ與ハフルニ過ス延テハ監  
 察院長ノ引責辭職問題ヲ惹起シ次テ之  
 ニ關聯シ或ハ國務總理大臣ノ辭職問題ニモ  
 波及スルヤモ知レズ趙氏一人ノ問題ヨリ斯クノ  
 如キ意外ノ波瀾ヲ卷起スノ恐多分ニ潛在スル  
 ヤニ認メラルルニ就テハ當方ノ事情御諒察シ上此  
 際速ニ辭職方勸告アリ度  
 尙當方ノ事情ヲ更ニ説明、必要アルニ於テハ軍  
 參謀ヲ上京セシムルニ付要否折返シ返電ア  
 リ度右遠藤廳長ハモ御傳ヘテ了  
 終

極秘

1216

保存期限  
決裁指定  
決行指定

政務次官回付  
決裁(前連帶)

大臣 陸	次官 政務	次官 高級	參與官	書記官	審案 筆記者
局長 主務	課長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務
局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務	局長 主務

決行(決裁)後  
回覽(課)名

1217

別紙ノ通

図



至  
名  
親  
厚

次官

部長

課長

課長

趙  
欣  
怡  
二  
共  
三  
件  
一

次官

（五年奉差長官）  
（有保信子）

趙欣怡、件二共三件、奉情シ

聽取セル結果、高方トシテ、尤、如何ノ処理改メテ妥當

ナリト見科、セシニ付、至名親厚見承り也。

一、越前倫の討死処分。當在野島調査ノ報告

(三月)

終了迄延期スル事。

二、報告終了後内面的指導、依リ辞表提出

ヲ勧告スル事。

三、本報告ニ依リテ、官廳ニテ初案ノ理由ニ依リ尚同

氏ノ功績ニ對シテ行賞ヲ行ヒ因滿ニ建勲センル

指掌之下

陸滿之印

昭和九年七月卅一日



至急

1221

保存期限	決裁指定	執行指定
受領番	件名	大臣
領	趙竹伯ニ關スル件	局長 主務
號	新案第八六二號	次官
案		政務次官
名		參與官
		高級副官
		書記官
		審案
		筆記者

政務次官  
參與官 回付

決裁後  
課名

多不送

決行(決裁)後  
回覽課名

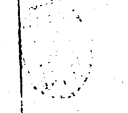
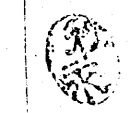
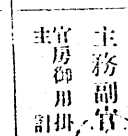
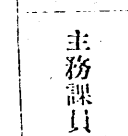
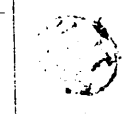
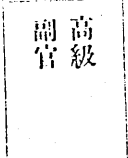
陸軍省軍務局軍事課

大臣	局長	主務	次官	政務次官

重案第二四

昭和九年八月三日

大臣	局長	主務	次官	政務次官



次官ヨリ關東軍參謀長宛（有線暗号）

趙氏ノ件ニ関シ過般來板垣、原田西ヨリ

彼ノ内意ヲ匡ニタル所ヲ綜合判断シ當方ト

シテハ左ノ如ク處理スルヲ要當ナリト判断セ

ラルニ付貴見至急承リ度シ

無條件即時辭表提出ノ勸告ハ到底彼ノ

肯スル所ニアラサルノミナラス本件<sup>（三）</sup>相當大ナル危  
 險性ヲ伴フ虞アリ蓋之此ノ際軍ニ於テ全然  
 彼ノ希望ヲ無視之即時處断スルニ於テハ彼  
 トシテハ軍ヨリ見離サレタルモノト思料之外國等  
 へ逃亡スル危険ナキニアラサルモノト判断セラレレ

ハナリ。

而シテ彼ノ希望ハ制度調査ノ終了ヲ待チ洋  
行スル爲立法院長ヲ田満辭職セントスルニアリ。

以上ノ如キ情勢ナルヲ以テ此ノ際ノ處置トシテハ

軍ノ彼ニ對スル厚意ヲ相當程度ニ保留シツ、

辭職セシムル外ナルヘク之カ爲ニハ相當ノ條件

此際辞職ヲ決定

ニテ即時辞表ヲ提出セシメテ軍ヲ保留シ置

キ制度調査ノ報告終了ノ時機ニ於テ辭職ヲ

實現セシムルヲ可トスル意見ナリ、

若シ能ク迄實見ノ如ク即時處断セラレ、方

針ナルニ於テハ相當困難ナルヘキモ一應彼ヲ満

三三

三三



洲ニ歸國セシメタル上断行セラル、方諸般ノ

關係上<sup>得</sup>集ナルニト思料セラル念ノ為。

陸軍省  
第五五

昭和九年八月四日





別紙ノ旨  
次官ノ関東軍考評長宛  
(有保暗号)

陸軍省  
第六百

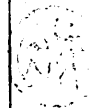
昭和九年八月廿三日

臣 宣

次官



局長



課長



課長



趙

欣依ニ関スル件

次官ヨリ 吳東平 局長長範 (有保暗字)

吳冬滿 一六六返

貴電敬承。 貴方トシテ、趙氏ニ対スル最後的

勸告口ヲナスニ先ケ、今回ノ事件ニ限ラス 将来ヲ考慮シ

追後 貴方トモ 協議セシ 尤記 諸件ニ関

陸

宣

スル貴見を总承致し候へ

一、監学院制を、改革案を、現制を、(運用に依り) 整

官ヲ是ニ正スルノ方策

軍将来ノ方針態度

二、現監学院部長長官氏ニ対スル取置

三、監学院ノ存続ニ対スル年明、許否並其ノ方法

尚貴電一丁奉示、依り貴院の方策を帰示命す

高者方ニ於テハ諸命ノ都合モアレハ場邊代ニシテ貴方

ノ申出ニ應スルキ場合ニ於テハ彼ノ待遇方ニテスル

異條案ニ付合ノ為承知申上ル

陸

臣

電報課

12321

極秘

電報譯

八月一日午前午後一時三十分著

第 號

陸軍次官宛 發信者 閣東軍參謀長

閣參滿一六六

趙欣伯ノ件ニ関シ板垣、原田及遠藤廳長ノ報告ヲ聴取

シ滿洲國側トモ慎重熟議ノ結果滿方トシテハ閣參滿

一一三一ノ通り此際直ニ彼ヲシテ自發的ニ辭表ヲ提

出ヒシメ、其解決ヲ慮ヒテ調査終了時ニ實施スルヲ滿

州ノ意見ニ變ヒタク徒ラニ時日ヲ遷延スル場合ニハ滿

洲國トシテハ已ニ得ズ彼ノ歸國ヲ命シ最後ノ手段ヲ

爲スノ外ナキニ至ルヘリ、又軍トシテモ從來彼ノ對シ最大ノ

好意ヲ表シ来タリシモ彼ニテ飽迄不正事廣ク否認シ  
 好意的輪旋ヲ容レサル限り滿洲國側ヲテ發動セ  
 シムルノ外無シ若彼カ減セルカ如キ暴露、戰術ニ出ル  
 場合ニ於テモ土肥原少將、板垣少將ヲ初メ當方及滿洲  
 側關係者共ニ何等憂慮スニキモノナレト確信シテ、殊ニ  
 最近彼カ二團庫司令官及小官ハ宛テタル書信類東京ニ  
 於ケル留字宅ノ名ヲ擅用シタルノミナラス其内容モ極メ  
 テ不遜ノ點數カラス。度モ改悛ノ意志無ク何等誠意  
 ヲ認メラレサルハ甚テ不快トスル所ナリ就テハ今一應最  
 後ニ辭表提出方御勸告相煩シ度

尚本月六日遠藤、原田両名ノ彼ト會見ノ際回答ヲ保



1234

電報譯

月 日 午前 午後

時

分 分 發 著

第 號

宛 發信者

留シアリタルニ依リ遠藤ヨリノ別電ノ如ク之カ督促方  
取計ハレ度



保存期限	決裁指定	執行指定
------	------	------

政務次官 回付

決裁後 課長 連帶

陸軍部

決行(決裁)後 回覧課名

大臣 		受領番 陸満密受第八一六二號		件名 趙欣伯之関心件	審案 筆記者
主務局長	次官	政務次官	參與官		
主務課長	高級副官	書記官	起元應(課名)		
大官房 了結 昭和 年 月 日	大臣 受領 昭和 年 月 日	主務局長 提出 昭和九年九月十七日	主務課長 受領 昭和九年九月十七日	軍事に第三五號	軍事課
決行後 決裁回覧	決行後 決裁回覧	連帶局長	連帶局長	軍事課	軍事課

次官より閣内事務参謀長宛電報（有必録）  
趙欣伯氏 貴官、最後の勸告に回答

セサルノニテスル 爾後、於て是辭表ヲ提出

セサルニ 既、方針通シ次

行ヒラレ度

右命（依り）

七二五

昭和九年九月十七日



1237

決行指定

決裁指定

保存期限

房官位大		課局務主		大臣	件名	受番額
了結	領受	出提	領受			
昭和	昭和	昭和	昭和		陸滿密受第八三二號	起元應(課)名
年	年	九年	年			
月	月	十月	月		軍事に第三五號	軍子保
日	日	二日	日			
(裁決)行決後		帶連		局長 主務	次官	政務 次官
長局		長局				
				課長 主務	高級 副官	參與官
長課		長課				
				主務課員	主務副官 官房御用掛	書記官
						筆記者 審案

政務次官  
參與官  
回付  
決裁  
前連帶  
後課名

決行(決裁)後  
回覽  
課名

陸

軍

次官より閣議事案係長宛報告（極秘暗号）  
 趙欣伯の憲法制定調査報告の脱稿に  
 近き報告提出の運びに三日前より彼と對  
 して免官及び撤換命令の何時頃發せら  
 るかや趙の辞表の提出<sup>出</sup>依願免官するの  
 形式トナツたに甚多の面白がるせん。付此の如  
 御考慮の上成らるる早目にて處置せらるる。

ト無少可キカニ考フ

尚考方トシテ長ク趙ノ内地ニ留ルルト

取替上ニ不便ニ付何方カノ方怯ク以テ

滿洲歸滿セシメ度々希望モシテ

退去命令ニテ強制スルノ場合ヲ湖海ニシテ

之カクテ趙ノ軍ノ機密等ニ就キ漏洩ノ疑

点時ハ甚事實ト共ニ機ヲ失セズ通報アリ

陸海軍省  
第七五

昭和九年十月二日

陸海軍省  
陸海軍省

1240

滿洲軍第八一師共三



至急

電報譯 一〇月二日 午前午後 四時五七分發

常務

第 號

次官 宛 發信者 閩東軍參謀長

閩宣電二九四

趙欣伯對之滿洲國政府ヨリ發セラルヘキ招還命令並之ニ關聯スル趙欣伯ノ言動ハ之カ掲載ヲ禁止スルヲ必要ト認ムルニ付然ルヘク取計ハレ度

本年七月九日吳山官舎ニハ一書ヲ送リテ其意ヲ示ス

ナキモノナリ

軍和昭 9.10. 3 前午 官

省軍陸 9.10. 新聞班 552

原書類ハ左記回覽中

主務課 回覽課

1241

保存期限  
 決裁指定  
 決行指定

房官位大		課局務主		大臣 委	件名	受領 番號	陸滿密受第(六)號	起元廳(課)名	參與官 回覽(決裁)後					
了結	領受	出提	領受							號番	名	額	陸滿密受第(六)號	參與官
昭和	昭和	昭和	昭和							軍事口第三五號	超			
年	年	九年十月廿二日	年							局長	欣			
日	日	日	日	主務	作									
(裁決)行決		帶		政務		起元廳(課)名		參與官						
覽回後		長局		次官		陸滿密受第(六)號		書記官						
長局		長局		高級		陸滿密受第(六)號		審案						
長課		長課		副官		陸滿密受第(六)號		筆記者						
長課		長課		主務		陸滿密受第(六)號								
長課		長課		課長		陸滿密受第(六)號								
長課		長課		主務		陸滿密受第(六)號								
長課		長課		課長		陸滿密受第(六)號								
長課		長課		局長		陸滿密受第(六)號								

委

臣



次官より国車年参謀長宛電報(略号)

赴彼地一昨三日大遠征制局長之事

務引継了し多 先般来一應帰

場(略号)意ヲ表示し了ん 持病ノ神經

痛日雨荒セル多ノ故暫ク療養ノ上

場場ニシト稱シテ身辺ノ危険ヲ

為してん多ト考セらん

最近に於ては追ノ心境に鑑し

當方トシテハ然カ及為互軍的言節ト

出テ志限ル此ノ上追及スルノ要ト

中人ノ自由意志ノ委ニ干意向ト

追テ追ハ然ハ飛免職ニヨリ目下ニ在ル院

ニ在職中ノ職員（追ノ推挙セル者）

註  
理

ニ果ク及ホスヲトキヤツ島レアルニ付カ信シ

送

陸揚ハ一八

昭和九年十月二十四日